

吹奏楽部がコンクールで全道へ

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2024年8月26日
第30号



8月3日、全日本吹奏楽コンクール第69回北海道予選札幌地区大会がキタラホールで開催され、C編成に出場した。28校中、金賞（8校）を受賞、全道大会に出場する代表校（3校）に選ばれた。

本番で力出し切った

曲は「メタモルフオーゼ」吹奏楽による交響的変容（作曲者・内藤友樹。作品解説は左）。

部長の木村花音さん（3・2）は「曲の上がり下がりがすごい。合奏部分が多く、息の合わせ方に気を遣いました。難しい曲です。」と語った。

本番は必死で演奏したが、録音を聞き、「一番良い演奏ができた」と振り返った。

C編成25人の演奏。この曲は昨年から候補に挙がり、連休から本格的に練習を開始した。

「何としてでも金賞を取りたい。どれくらい完成度で金賞に入れるのか、この演奏で良いのか、試行錯誤しました」という。

全道大会に向けては「同じく全道に選ばれた山の手、北海道高校を越える演奏ができるように頑張ります。そのためにも、基礎を丁寧に仕上げ、皆で同じ

目標に向かう意識を持つこと」と語る。

木村花音さん クラシック音楽コンクール予選1位通過

8月17日、木村花音さんは日本クラシック音楽協会主催の第34回日本クラシック音楽コンクール札幌地区予選（サンプラザホール）に合格し、全道大会への出場権を得た。

サクソス部門で1位に

サクソス部門には中学生2名、高校生5名が出場し、花音さんは80点満点中79点を獲得し、1位通過した。

部長もソロも全力で

曲名は「シャンソンとパスピエ」、4分半の曲だ。「静かに始まり、パスピエから激しく動き、途中なめらかでありながらも最後に向けて動きのある曲」だ。吹奏楽コンクールで陣頭指揮を執りながらも、「ソロのコンクールに出たい」という思いを叶え、2週間ほど練習を積んできた。全道大会は10月11日、全道大会出場を目指して研鑽している。



（上写真は右からピアニストの谷津祐子先生、木村花音さん）

心の変容ダイナミックに

【作品解説】2013年、安城学園高等学校吹奏楽部委嘱により作曲し同年同校より初演されました。2018年、札幌ブラスバンドにより第66回全日本吹奏楽コンクールで演奏されました。無音の世界から音が生まれ、融け合い、ぶつかり合いながら大きな音、うねりへと変わっていく様を表現しております。

緊迫した和音が静けさを打ち破る冒頭。ティンパニのソロを挟み金管楽器が二分音符で淡々と演奏する中、木管楽器の細かいスケールが音の流れを形成します。トゥッティで断片的に描かれる短調の主題が、次の木管セクションではしっかりと提示されます。続いてオーボエの繊細なソロを経て、様々な楽器により継続的に演奏されます。そして、怒濤に押し寄せるクロマティックスケールの中、ホルン・トロンボーンにより力強く再現されます。ホルンで始まる中盤。冒頭のモチーフが展開され激しさを増す一方、ジャズの和音を用いた旋律が穏やかな時を演出します。そして、速いテンポで凌ぎ合う旋律の中で研ぎ澄まされた音は、時間をかけ確実に成長していきます。サクソスが優しく語りかける終盤。幾度となく提示と再現を繰り返した主題がついに長調へと導かれます。ピッコロの軽やかなオブリガトを受け、トゥッティで華やかに演奏されます。成熟した音は次の変容を期待させながら堂々と終わります。

最後に、この作品は心の内面を描いた曲でもあります。様々な思いがあり日々変化する心情。演奏・拝聴された後、少しでも穏やかな気持ちになっただけであれば幸いです。（内藤友樹）

（Naito Music HPより）